

学校点描

朝の冷え込みは玄関前を凍結させ生徒達はおっかなびっくりで歩いています。解氷剤を蒔いてはいますが効果はいまひとつです。

《S 中学校》

NO.12 H30. 12.27

先週までの三者面談に足を運んでいただきありがとうございました。きっと家庭では見られないわが子の学校での様子を知ることができたのではないのでしょうか。なんとなく、三者面談の時期は、学校で生徒は神妙そうに見えます。教師と親から挟まれて、自分のことを語られるのですから、「何を言われるのかなあ」と朝から考えているのでしょう。

父母と教師の会のK副会長と会合で話をした時、自分の時は親が仕事で忙しかったから、「弟の面談に兄として参加したんだ」と教えてくれました。家族の絆が強かった時代です。天皇陛下が、最後の記者会見で象徴天皇としての仕事を旅に例えてお話をされたことをニュースで大きく取り上げていました。考えてみれば子育ても長い旅のようなものかもしれません。雨の日もあれば、快晴もあります。

赤ちゃんのへその緒

大学で医療関係を学んでいる娘とは、ほんとうに時々会いに行くくらいです。大学の駐車場を集合場所にして、娘の行きつけのスーパーに行き、米やら洗剤やら、大量の買い出しに付き合わせられます。もちろん支払いはこっちなわけです。10kgの米を4階のアパートの部屋まで運びます。安いアパートですから、エレベータなんてありません。ひととおり、物品搬入を終了して、帰宅しようとする、ふと部屋のテーブルにあった資料に目がとまりました。「大学の先生がこれ読んで来いって言ったレポートが宿題だよ」と娘の返事。

すこし簡略化して内容をご紹介します。



へその緒というものは、お母さんと赤ちゃんをつないでくれている大切な役目を持つものです。そうすると、へその緒の中は血液が流れているんですね。へその緒というのは血管なんです。じゃあ、そのへその緒の中に流れている血液はお母さんの血液ですか？赤ちゃんの血液ですか？

んーと考え込んでしまいます。確かに、どっちなんだろう。子どもとつながっているんだからそれは母親の血だろう、でもまあ、子どもと

母親の血液型が違うこともあるなあ???

なんだか、すぐに地元に帰れなくなってしまったわけです

先週までの三者面談。いろいろ心配事もあったかもしれませんが。担任より面談の様子を聞くと、子どもの話を聞こうとする保護者の皆さんが増えたな～と感じます。聞こうとする姿勢さえあれば、子どもの心はスッカリしてもっと話をしたいと思うようになるでしょう。ただその反面、聞こうとする気持ちはあるのに、なかなか、子どもが話したがないという悩みを語る方もいたようです。子どもの話を聞くのを“我慢”と思っていたり、“親の言う通りにさせるため”という気持ちで聞いていたとしたら、子どもは話しても無駄だと思うかもしれません。話を聞くということは、「子どもの考えの整理をお手伝いしているんだ」そんな思いで聞くと、子どもとの会話の量は増えていきそうです。でもそう言っている自分がなかなかできません。

お母さんの血液型と子どもの血液型が必ずしも同じというわけではないです。胎児の体の中にお母さんの血液が流れていったら胎児は死んでしまいます。と言うことは、へその緒の中に流れている血液はお母さんの血液ではないということです。へその緒の一番先端はお母さんの胎盤とつながっていますね。胎盤がお母さんの血管から栄養分と酸素を取り出して、胎児の血管にしみ込ませて胎児の体の中に入っていく。・・・・・・。

人間という動物は、お腹の中にいるときから自分で血液を作り、自分で体の状態をコントロールしているんですね。体がそうであるならば、頭や心も本来は「こうなりたいからこうしたい」と自分で考え、自己管理する力をすでに持っている、けれども何かの原因でその力が発揮されていないとしたらどうでしょう。

外部からコントロールすることよりも、“どうなりたいか”の思いや考えを整理してあげることにより力を注いだ方が、自律した子どもを育てるのかもしれません。

「今日何食べたい？」

「今日はスッカリしたから肉たべたい！」

夕方遅く、三者面談が終わり二人で帰る親子がいました。

(文責 教頭)

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

